
もう少しだけ

愛理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう少しだけ

【Nコード】

N8423A

【作者名】

愛理

【あらすじ】

組織は壊滅。彼は元の姿に戻り、幼馴染みの彼女は本当の笑顔をとりとどした。全てがもとに戻った。たった一人の小さな科学者を除いて。カゼをひいた哀。見舞いにきた新一を直視できない。

『言葉を交わす度、胸の奥に閉まっただけの気持ちはガツンとく……』

冬の力ゼ（前書き）

夏場に冬のお話です。。あつくるしい（苦笑）

もうひとつの小説

忘れてあげない

もぼちぼち更新していきます。遅れてすみません（^^；

とりあえず灰原さんのおはなし、おたのしみくださいっ！

冬の力ゼ

トゥルルルル、トゥルルルル、トゥルル、

ガチャ

「はい、阿笠ですけど。……あ、……久しぶりね。

……博士？今いないわよ。知り合いの娘さんの結婚式に出席するつて、……ええ、そうね、帰るのは明日って言ってた……ゴホツゴホツ……

……あ、ちよつと風邪ぎ……ゴホツ……え？いいわよ。……別に大したことないし、

……だからいいってば、……ちよつ、……もしもし？」

ツー、ツーと、冷たい電子音を放つ受話器。

静かにスタンドに戻す。

「はあ……」

つい出た、少女のため息はガランとしたリビングに結構響く。パジヤマの上からオフホワイトのカーディガンをさっとはおるとパタパタと少し大きめのスリッパで歩く。ストーブの前で足を止める。26度、設定温度を少し上げた。さっきより強まった温風がカーテンを揺らす。

隙間から見えた空は鉛色をしている。今にも雪か雨が揺りそうな、重たい曇。

しばらく窓ガラス越しに、ボーっと眺めていたが冷えたのか、咳が

酷くなったのでベットに戻ることにした。

スリッパを脱ぎベットに入る。サイドボードに立掛けてあるカレンダーは12月になっていた。

（一ヶ月振り・・・かしら。）

また、ふうとため息をつくとも布で口元まで覆った。

1年前、「黒の組織」は壊滅した。
壊滅

このたった二文字の言葉では言い表せない、激しい戦いだった。

組織の大半の人間がアメリカに引き渡され、その国の法の元で裁かれることになった。

マスコミ各社も連日その話題でもちきりだった。なにせ、政財界、経済界の大物が次々に捕まるという異例の大事件。名目こそ、汚職だの脱税だのといことになっているが、詳しい発表はまだされていない。

あまりにも大きな組織。捜査は慎重に慎重をかさねている。そのためマスコミへの情報開示はほとんどない。

当時はそんなこともあって日本警察は相当叩かれたが、毎日の様に起こる凶悪事件に国民の関心は薄れ、何も変わらない毎日いつの間にか戻っていった。

「哀ちゃん出来たよー！はいっ 玉子粥！」

「…ありがとう」

ゆっくりと上半身を起こしてお粥を運んできた女性にお礼を言う。
腰もとまで伸びたしなやかな黒髪は同姓である自分の目からみても
ため息もの。

「…味はどおかな??」

「えっ…、ええ美味しいわ」

レンゲを持ったままお粥を見つめ止まっていたので、その女性は少女の顔を覗きこみ尋ねてみた。少女は、はっとしてお粥また食べ始めた。美味しいという言葉にほっとした女性はそっか、よかったと言いきッチンに戻っていった。

バラの香りが鼻孔をくすぐる。シャンプーだろうか。いやみが無く爽やかな香り…

あの女性^{ひと}にぴったりの…

「オメー、食欲ねえのか？」

その声に体は反応する。瞼は上がり、心臓の鼓動は速い。
正直すぎる。

「べっに」

いつも通り応えた。等。

少しだけ声が上擦ったが気になりはしないだろう。

「まあ、食えるぶんだけ食っとけよ」

カウンターに両肘を付き此方を見つめている。
食べにくい。

ブルルッ

急に鳴った振動音に驚く。口から溢れたお粥を人指し指で拭いた。
音の発信源では何やら彼があせている。

「おい蘭！電話来てるぞ！！」

「えー？誰からー？」

キッチンの奥から返事をする彼女。洗い物で手が離せないらしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8423a/>

もう少しだけ

2010年11月5日09時59分発行